

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,231	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		7,231

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス 総 排 出 量	6,741	t-CO ₂	5,791	t-CO ₂	6,927	t-CO ₂	7,253	t-CO ₂	7,231	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			14.1	%	▲ 2.8	%	▲ 7.6	%	▲ 7.3	%
温室効果ガス みなし総排出量					6,146	t-CO ₂	6,278	t-CO ₂	5,864	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					8.8	%	6.9	%	13.0	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの 排 出 量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和6年度は新たに12,924,000kWh分の非化石証書を購入し、各事業所の電気使用に伴う温室効果ガス排出量の削減を図った。名古屋事業所については非化石証書にて1,518.5tの温室効果ガス削減を行った。それにより、みなし総排出量については基準年度比で15.3%削減となり目標達成することができた。また、令和5年度に引き続き活性汚泥施設にあるブロワー1台を省エネタイプのターボブロワーに切り替えたことで同施設の電気使用量を更に約3%削減することができた。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進 (全般)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の効率化で間接的に省エネ、省資源を図る ○ 省エネ設備の導入（事業所内の設備更新の際には省エネタイプとする） ○ デマンド計による夏場のピークカットの実施 	<p>本社・名古屋事業所の温室効果ガス排出量を令和6年度までに5,791tCO2以下とする。</p>	<p>令和6年度は非化石証書の購入や活性汚泥施設へのターボプロワールの導入といった取り組みにより、みなし総排出量であるが、令和3年度比で15.3%削減することができた。</p>
省エネルギー・省資源の推進 (冷暖房)	<ul style="list-style-type: none"> ○ エアコン温度設定、クールビズ等 	<p>同上</p>	<p>エアコンの温度設定を継続して実施しており、省エネができています。</p>
省エネルギー・省資源の推進 (照明)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所内の照明のLEDへの更新 	<p>同上</p>	<p>令和6年度は令和5年度に引き続き活性汚泥施設にターボプロワール1台を導入し、同施設の電気使用量の削減を図った。</p>
工場等の処理行程における対策 (燃料の見直し)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所構内で使用するフォークリフトや重機の燃料のGTL燃料への切り替え 	<p>同上</p>	<p>GTL燃料の価格高騰のため、GTL燃料の使用を一時停止。</p>
自動車利用における取組み（廃棄物運搬車両）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不要なアイドリングの禁止 ○ 効率の良い回収ルートの設定 ○ 収集運搬車両へのデジタルタコグラフの導入 	<p>全車両の平均燃費3.70km/L以上</p>	<p>令和6年度の燃費は3.83km/Lと目標を達成することができた。</p>

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
グリーン電力証書	美浜町 他	1,367.0 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

1,367.0	t-CO ₂
---------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

事業所内に雨水槽に雨水を貯留し有効利用している。廃棄物の中間処理にて発生した中間処理後物の減量化を図り、廃棄物の排出量の抑制を図っている。Scope3の削減に向けて取引先からの一次データ取得に取り組んでいる。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況